

平成 11 年 11 月 26 日
科 学 技 術 庁
外 務 省
通 商 産 業 省

1. 放射性廃棄物国際会議

(1) 11月1日、2日。米国のコロラド州デンバーで開催。米エネルギー省主催。各国の放射性廃棄物の地層処分に対する政策的取組み・技術的課題等について議論・情報交換を行うことが趣旨。

(2) 主な出席者

米：リチャードソン長官、露：アダモフ大臣、IAEA：エルバラダイ事務局長、OECD/NEA：エチャベリ事務局長

我が方は、森島上智大教授、鈴木篤之東大教授、青山科技庁廃棄物政策課長、北野外務省科学原子力課長他が出席。

(3) 要点：

(イ) 地層処分についての各国の経験・考え方についての討議・情報交換が行われた。

(ロ) 国際貯蔵に関しては、数名の発言者から、「国際貯蔵」のメリットを指摘する発言がなされたが、今大切なことは各国の国内の計画を進めることであり、「国際貯蔵」の議論を今行うことによって各国の国内における地層処分の取り組みに悪影響を与えてはならないというのが主な議論の流れとなった。

(ハ) 我が方からは、森島教授のステートメントの中で、「国際貯蔵の構想を推進・追求する事は我が国の政策にあらず」旨述べ、我が国政府の立場を明確にした。また、スウェーデン及びフランスが「国際貯蔵」構想に対する反対論を明確に述べた。

2. 国際貯蔵構想に係る論点

(1) 国内における使用済燃料貯蔵に係る考え方

(2) 我が国の外交姿勢の問題（立地国との関係）

(3) 適切な受け入れ国があるのかという問題（地政学的安定性等の問題を含む）